

業	活動指標名	単位		H25	H26	H27	H28
	胃がん検診開催回数 (集団)	回	目標		17	17	17
実績				20	22	22	
乳がん検診開催回数 (集団)	回	目標		24	24	24	25
		実績		32	24	26	
績	成果指標名	単位		H25	H26	H27	H28
			胃がん検診 (集団・個別)の受診率	%		-	19.5
			目標				
			実績		17.5	19.3	
			目標		-	6.4	6.4
			実績		4.4	5.7	

事業の自己評価	平成27年度の実施結果	事業の達成状況	医療機関に人間ドック、がん検診実施中というポスターをはり、多くの市民に周知することができた。開始2年目の人間ドックにおいて実施者の増加がみられた。胃・大腸・胸・子宮・乳・前立腺のすべてのがん検診において前年度より受診者が増加した。				
		事業実施における課題	すべてのがん検診の受診率を上げることが課題である。特に子宮がん受診率は県内で最下位である。働く世代のがん検診受診者が少ないため、受診率を上げる必要がある。初回受診者を増やすことと不定期受診者を継続受診させることが必要である。				
		事業を縮小・廃止したときの影響	2人に1人はがんにかかるといわれている中、小牧市民の死亡の原因の第1位はがんである。がんが原因で死にいたらないようにするためには、がんの早期発見、早期治療が重要である。そのため、事業を縮小、廃止した場合は早期発見・早期治療が難しくなり、がん死亡が増加したり、医療費の増大が考えられる。				
	平成28年度の改善内容	28年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	今まで受けたことがない人も受けてみようと思うような内容を加えて、がん検診のPRをしていく。「がん検診実施のための指針」の改正に伴い、胃がん検診において胃内視鏡を導入				
平成29年度の事業の方向性	方向性の判定	拡大	対象の拡大や手段の充実等により、事業のボリュームを拡大すべきもの				
	判定理由	がん、生活習慣病の早期発見には、健診の重要性のPRと受診しやすい環境の整備が必要である。また、29年度は乳がんの個別検診を実施するため拡大とする。					
	29年度以降の改善案	受診率の低い乳がん、子宮がんについて、受診率が上がるように個別通知などのPRの方法を検討していく。乳がんに関して、受診しやすい環境整備として個別検診を導入する。乳がんの個別検診が導入できると医療機関によっては、子宮がん検診と同時受診が可能となる。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	拡大	一次評価のとおり。受診率の低い検診について、周知方法を検討し受診率の改善を図ること。